みんなのがっこうのどうぶつ

第40号　　2025年6月3日
公益社団法人 栃木県獣医師会・学校飼育動物支援委員会

動物飼育 知っておくべき三つのこと

新学期がスタートし、新しく飼育担当になった先生方は前任から引き継いだものの、実際の活動には戸惑いながらの日々を送られていることでしょう。
今回、動物飼育の知っておくべきことを三つ取り上げました。
獣医師会への連絡先が、日々の活動で困った時に役立つ、「三枚のお札」になればと思います。

公益社団法人 栃木県獣医師会
028-622-7793
fax 028-621-9660
e-mail: tochivet@viola.ocn.ne.jp

その１
「動物を飼ったことがない（ウサギを飼ったことがない）ので、児童に質問されても答えられない」

県教委が毎年、「小動物飼育指導担当教員研修会」を開催しています。講話とウサギ実技の二部構成で、実践的な知識とウサギとの接し方を学べます。

お近くの動物病院に相談する。または、公益社団法人栃木県獣医師会に相談する（電話やメールなど）

その２
「動物の様子がおかしいと児童に言われたが、どう対処するべきかわからない」

ウサギは元気にしているようでも急激に状態が悪化します。食欲減退や下痢などの症状は三日で死に至ることもあります。「ひとまず様子を観て…」は危険です。まず、専門家に相談です。

- 掛かり付け動物病院に電話で問い合わせする。
- 公益社団法人栃木県獣医師会に相談する（電話やメールなど）

その３
「ウサギが死んでしまったが、どう対処するべきかわからない」

ウサギが亡くなった時、児童がお別れをできる機会を設けます。酷い姿を児童に見せないことが大切ですので、亡骸をきれいにし、周りにお花やお手紙を添えてあげます。
火葬して構内の一角に「〇〇ちゃんのお墓」と墓標を作り、埋葬してあげます。（NL第35号参照）

Column コラム

８年前の2017年9月に栃木市の小学校さんから譲り受けたこの子は、過密な環境で他のウサギから攻撃を受けて背中と右目に酷い外傷を負っていました。背中の酷い怪我を手術し、右目の傷も癒えて、新しい環境でゆっくりと過ごしてもらいました。

その後、小動物飼育指導担当教員研修会や小学校一年生の生活科・生きものとなかよしのウサギふれあい授業で活躍し、県内、小山市内の一年生たちに小さくても命があり、心があり、命は温かいことを伝えてくれました。

2025年4月16日の朝、穏やかに息を引き取りました。推定年齢10歳の男の子。
優しくて、人懐っこく、愛しい子です。
夏になると好きで食べていた草が生い茂るだろう栗畑に眠っています。